

## ケアセンターけやき 居宅介護支援

井本 哲吉(居宅 / 介護支援専門員)

**功 績** 内縁関係にあったが療養のため別々の生活を送ることになり、交流が途絶えてしまった二人を担当していたけやきのケアマネジャーが、終末期を迎えた男性の女性に会いたいと思い、「最後に一目会いたい」という女性のお互いの願いを叶え、最期の対面を実現することができたことに対する功績。

**推薦者氏名** 山田寿朗

**推薦理由** 最後に一目会いたいというお互いの思いを汲み取って実現させた咄嗟の判断力と行動力。

タイミングを逃していたら会えなかったことを考えると、愛情を持った素晴らしい親身な対応だといえる。

### 内 容

---

対象のご利用者2名（男性70代：要介護4、脳梗塞後失語、両上下肢不全麻痺 女性70代：要介護5、脳幹出血後左半身麻痺）は、もともと内縁関係にあり同居されていた。

令和4年11月、女性が重度肺炎のために入院。退院後も静養のため、同居生活は解消したが、その後、差し入れや身の回りの世話などで、女性が男性宅に週に1度は通っていた。

しかし、令和7年2月に女性が脳幹出血を発症。入院加療を経て令和7年8月に退院するも、左半身麻痺の寝たきり状態となり、両者の交流は完全に途絶えてしまった。

令和7年11月中旬、今度は男性が風邪をこじらせて重度肺炎となり、重篤化。24時間体制の医療ケアを実施するも、「余命は1週間」の宣告を受けた。男性は失語症もあり、既に意思表示ができない状態だったが、普段から「女房に会いたい」と訪問するたびにおっしゃっていたため、その意思を女性に伝えたところ、女性からも「もうだめかもしれないね、最後に一目会いたかったわ」とおっしゃった。

その瞬間に井本は、もう待たなしの状況下で、お二人を直ちに会わせてあげたいと思い立った。井本は、お二人の状況を調整して、すぐに介護タクシーを手配した。上がり框の昇降などタクシーの運転手にも協力を仰いで、お二人は約1年ぶりの再会を果たすことができた。

既に男性は呼吸もしているかも分からない状態だったが、女性の声掛けで覚醒。うっすらと目を開けながら握手を交わした。女性が「来世でまた会おうね」と話しかけると、男性はしっかりと女性を見ながらうなずかれた。

そして、翌朝、男性は旅立たれた。